

# 宇電懇ニュース

宇宙電波懇談会事務局発行  
(名古屋大学理学部)

## 目次

- I. 宇電懇運営委員会および総会のお知らせ
- II. 宇電懇20周年記念パーティーの報告
- III. 「甲斐さんを悼む」
- IV. 国立天文台・電波天文専門委員会の報告
- V. 野辺山宇宙電波観測所研究会・ワークショップ公募のお知らせ
- VI. 名大新4メートル短ミリ波望遠鏡開所式
- VII. 会員の動向

### I. 宇電懇運営委員会および総会のお知らせ

東京で開催される日本天文学会春季年会の期間中、下記のような日程で宇電懇運営委員会および宇電懇総会を行ないます。ご参加をお願いします。

宇電懇運営委員会

5月15日(水) 午後5時30分(講演終了後) 於 天文学会A会場

宇電懇総会

5月16日(木) 昼休み 於 天文学会B会場

議題は、宇電懇シンポ、URSI選挙、その他です。

### II. 宇電懇20周年記念パーティーの報告

昨年12月6日(宇電懇シンポ初日)に国民生活センターにて宇電懇20周年記念パーティーが開催されました。

当日は、日本の電波天文学を支えていただいた功労者「法月惣次郎」「塚田憲三」「阿部安宏、青柳武郎」の方々の今までの労をねぎらい、感謝状を贈呈しました。

参加者は古在由秀国立天文台長を始めとして70名を超え、これからの電波天文学の

大きな飛躍を目指して、宇電懇の更なる発展を期すものとなりました。

なお当日、宇電懇加入者は300名を越えました。(文責 小川)

### III. 「甲斐さんを悼む」

国立天文台野辺山 えの目信三

甲斐さんが亡くなったという電話を小杉君から受けたのは3月11日の夜7時過ぎでした。後で死亡時刻が7時となっていましたから、野辺山には真っ先に知らされたことになるでしょう。以前からこの日のあることは、それとなく知らされていましたが、亡くなりましたという言葉聞いたときはやはりショックでした。甲斐さんが蒔いた、SOLAR-R/HXTと電波ヘリオグラフという、2つの大きな種が芽を出し、花を咲かせるまでは、せめて生きていて欲しかったと慨嘆せずにはられません。

甲斐さんを悼む言葉は小杉君が天文月報の5月号に書き、中島君がNROニュースの3号(井上編集委員長シリーズ)に原稿を頼まれています。少し離れた人間が書くのも違った趣があるだろうと、ワープロの重いキーを叩き始めました。

甲斐さんと私の個人的な付き合いは随分最近になってからのような気がします。私が学生の頃は学芸大学にいらして、あまり三鷹の天体電波(ノイズ)へは顔を出されなかったと記憶しています。私が豊川へ移った頃はオーストラリアで大変活躍していました。その後東京天文台野辺山太陽電波観測所が開設され、160MHz干渉計の立ち上げに並々ならぬ苦勞をされた頃は見聞きしていましたが、今から考えても理由ははっきりしませんが、お目に掛かる頻度はそれ程ありませんでした。

接触の機会が多くなったのは1986年頃だったかと思います。メモを見ると、東京天文台の将来計画委員会で改組の話が1987年に決まって、空電研究所第3部門との合併の話を具体的に進めるために、甲斐さんが東京天文台の連絡係となり、古在台長と豊川に來たりするようになったとあります。この頃から、色々の話を現実に決めていかなければ先へ進まないという段階になり、大筋・基本では一致していても、個別の問題、細かい点では、判断に食い違いがしばしばあり、お互いに気まずい思いをしました。私の印象では、東京天文台の多数派の意見は出来るだけ尊重したいという姿勢を甲斐さんは貫きたかったように思います。私も出来る限り譲ったつもりでしたが、どうしても我慢できない時は古在台長と相談したいと言って、その場は切り抜け、古在台長から説得して頂いた事が幾度かありました。この時期はお二人共不愉快だったろうと思います。しかし、空電研究所所長との折衝を甲斐さんが担当された時はどうしようもありませんでした。感情論が99%を占めて、何も物事が進まないの、無理にお願いして、中止して貰いました。これも甲斐さんには別の不愉快な事柄だったと想像します。

改組が認められても、電波ヘリオグラフの予算は通らず、豊川でも、野辺山でも、楽



しくない日々が続きました。甲斐さんはこの苦しい時期に森本さんと信州大学の教授めぐりをされていました。まともな方法が通用しないと判った時の、森本さんの強さを知っている人は電波天文の世界には少なくありませんが、この時期に自らの身を投じて、伊那、松本、上田を駆け巡ったことは正当には十分に評価されていません。このことは甚だ残念に思います。この努力がなければ、現在電波ヘリオグラフを建設している用地を、理解を得て、信州大学農学部から借用することは出来なかったと私は確信しています。

やがて、電波ヘリオグラフの予算に関連して、各方面と折衝していくうちに、段々手応えが感じられるようになる時期が巡って来ました。この頃になると、既に電波ヘリオグラフ建設準備室は発足して1年半程経っていて、かなりきわどい議論も出来るようになっていました。しかし、それだけでは済まないことも出てきて、甲斐さんとも更に厳しくやり合う羽目に何度々出会うことになりました。多くの場面では判断の相違が問題となり、電波ヘリオグラフ準備室で全員にはかり結論を出すことで何とか納めたりしました。決断はせざるを得ませんでしたが、最終的にどれがどう正しかったかはもう少し時間が経たないと答えは出ないでしょう。甲斐さんには是非その時まで生きてもらい、お互いに齒に衣着せない評価をしたら面白かったのと思います。

電波ヘリオグラフの建設はこれまでのところ順調に進行していて、現在我々がメーカーと協議して作成したマスタースケジュールによれば、91年の夏にはフロントエンド受信機を含むアンテナ系が野辺山に設置されて、ようやく電波ヘリオグラフの姿が見えて来るようになります。秋には電波ヘリオグラフの観測棟が共同利用宿舎の北側に出来上がり、中間周波受信機、バックエンド受信機等がその中に設置され、信号伝送系（高位相安定光ファイバケーブル等）が地中に敷設され、アンテナと受信機をつなぎます。そして、それぞれの単体調整が始まります。12月にはデータ収録処理系が観測棟に搬入され、年が明けて92年1月からは総合調整に入ることになっています。3月までこれは続きますが、楽観的な見方をする人はこの時期に試験観測になだれ込むことが出来そうだと考えています。甲斐さんがいれば、いやいや、やはり夏までに定常観測を始める、とこれまで通り公表することにしようとおっしゃったに違いありません。

宇宙電波懇談会の力強い指示を得て走り出した電波ヘリオグラフ計画には甲斐さんが野辺山で始めた17GHz相関型干渉計に盛り込まれた独創的なアイデアが沢山引き継がれ、発展されています。出来るだけ早く完成させ、良い成果を出すことが甲斐さんの決断に応えることと一同確信しています。

いずれにしても、田中春夫、甲斐敬造という先達がこの世を去り、私は愚痴をこぼす相手もなくなったという気がします。私にとって二人は先輩であり、太陽電波の観測に最後まで情熱を燃やし続けたのでした。



#### IV. 国立天文台・電波天文専門委員会の報告

##### 電波天文学専門委員会（第9回）報告

日 時：1991年4月12日（金） 11:00 - 16:00

場 所：国立天文台三鷹会議室

出席者：森本（委員長）、石黒、井上、鯨目、海部、笹尾、桜井、祖父江、柴崎、田原、土佐、長谷川、平林、福井各委員

列席者：長本事務主任

報告に先立ち、故甲斐太陽電波観測所長に黙禮を捧げた。

##### A. 報告

人事移動、電波ヘリオグラフ工事進捗状況、プログラム小委員会などが報告された。

##### B. 議題

##### 1. NRO将来計画

##### i) 干渉計増強計画

8素子目の建設計画について石黒委員から報告があり、予算獲得の方策や建設推進体制などについて質疑の後、建設推進について合意した。

##### ii) VSOP相関局

VSOP用相関局の建設概要について森本委員長から報告があり、平林委員から宇宙科学研究所の相関局予算要求の状況について補足説明の後、運用体制などの議論を行った。

##### iii) サブミリ波衛星計画

サブミリ波衛星を宇宙科学研究所と協力して打ち上げる計画について石黒委員より報告があり、長谷川委員より補足のコメントがあった。その後宇宙科学研究所との協力体制や理学部天文センターとの協力関係などについて議論があった。

##### 2. 1990年度事業報告

森本委員長が追加資料に基づいて事業計画を報告し、続いて鯨目委員が電波ヘリオグラフ建設時の遺跡調査の成果について補足した。その後了承された。

##### 3. 1991年度事業計画

##### i) 共同利用関係

次期共同利用観測の年間スケジュールについて井上委員から報告があり、さらに長期共同利用観測募集案について報告された。議論の後、以下のようになり長期共同利用観測募集案が決定された。  
ユーザーズミーティングで公開検討し、プログラム小委員会でそれをふまえて審査・決定する。ただし応募数が多数の場合第1次選考を書類審査することがある。

##### ii) NRO研究会・ワークショップ募集

NRO研究会・ワークショップ募集は従来通り行う予定であることが石黒委員より報告され了承された。これに関連して国立天文台の研究会との関連が議論され、NROとして必要なユーザーズミーティングなどの他は来年度から天文台として一本化を検討することが了承された。

##### 4. 1992年度概算要求

特別経費（国内VLBI網の確立、受信機更新）について石黒委員より報告があり、受信機更新要求は予算削減問題とも関連するので事務と打ち合わせる等の議論の後了承された。

5. NRO 研究員

4 名から 5 名への定員増および内規改正の提案が石黒委員からあり、議論の後了承された。

6. NRO 人事

i) 宇宙電波

海部・春日両氏の後任を強く要求する。NRO はこれまで外部に多く人を出し、人事交流に協力してきた。欠員のままでは悪影響が出て来るので早く補充するように専門委員会としても積極的に推進したい。

ii) 太陽電波

太陽電波と Solar A との結びつきよりも、太陽電波の体制についての観点や、太陽物理や天文台全体としての検討が必要である。

iii) 全体討論

人員配置を考慮し強化する分野を判断するのが必要であり、これまでの進め方は不満。ユーザズミーティングのような場での議論が必要。NRO 内部ではかなりオープンに議論していたが、あまり表に出ていないのではない。将来計画は検討されており、人事はそれと表裏一体となっている。評価委員会など、人事一般をチェックする委員会を天文台内に作るべきである。

等の意見が出され、次回に継続審議となった。

(文責 井上)

V. 野辺山宇宙電波観測所研究会・ワークショップ公募のお知らせ

V-1 NRO 研究会・ワークショップ公募

例年どうり、NRO 共同利用の一環としての研究会・ワークショップの公募を行います。希望者は、テーマ・主旨・参加予定者リスト（概略でよい）・必要経費（概算）・開催希望期日・開催予定場所および責任者を、書面にてお送り下さい。

申し込み締切 : 5月18日 (土)

送付先 : 〒384-13

長野県南佐久郡南牧村野辺山

国立天文台野辺山宇宙電波観測所

所長 石黒正人



## V-2 NROユーザーズ・ミーティングのお知らせ

### 第9回 NRO ユーザーズ・ミーティング

サークュラー 1

1991/05

時の経つのも速いもので今年もまたユーザーズミーティングの季節がやってまいりました。45 m鏡は、今年で第9期の共同利用が行われ、来年度から長期共同利用という新しい形態の共同利用が始まることになりました。また、干渉計の共同利用も4期目を終えて、共同利用観測装置として落ち着き初め、現在の共同利用のやり方に対し、内外から問題点がいくつか見え始めています。これらのことをふまえ、今年の野辺山宇宙電波観測所ユーザーズミーティングを以下の日程・内容で行いたいと考えております。意見・コメントを世話人「大石・村田(NRO)、泉浦(東京学芸大)」までお寄せください。

1. 日程 7月16日(木) 昼～18日(金) 昼まで(詳細未定; 7月16日夜懇親会)

2. 場所 野辺山宇宙電波観測所

3. 内容 45 m鏡長期共同利用と、干渉計共同利用形態

#### ● 報告

90年度 45m、干渉計共同利用

45 m鏡長期共同利用

NROの運営・動向/将来計画

各研究機関の動向

出版・研究会

#### ● 議論

干渉計、ヘリオグラフ、VLBI共同利用

#### ● ポスターセッション

共同利用・NROプロジェクトの成果

(注) 講演数によっては7月16日午前からとなるかも知れません。

新電波望遠鏡が  
名古屋大で完成

オリオン座やへびつかい座  
などで発見するなどの成果  
を上げてきた。

新しく完成した電波望遠鏡はこれの改良版で、アンテナの口径は四倍と同じだが、鏡面を炭素繊維で強化したプラスチック製とし

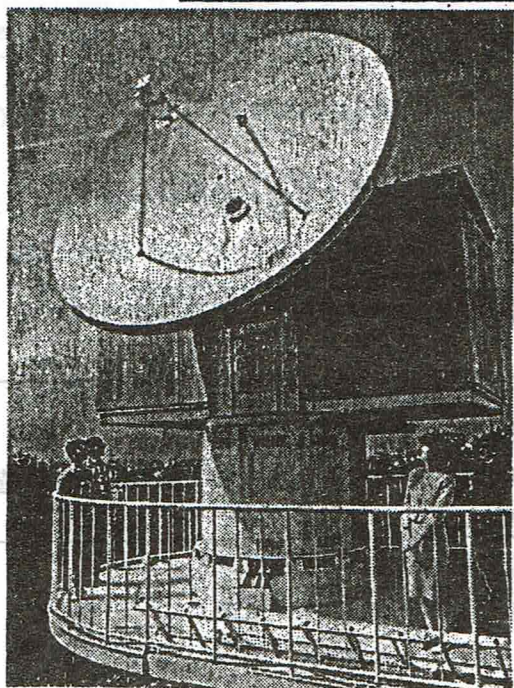
た。アルミ製の旧型と比べ、重さが三分の一、熱による変形は六分の一以下となり、アンテナの操作性が大幅に上がった。受信器に新開発の超伝導素子を組み込んで、観測の邪魔となる

名古屋大が天体観測用に  
新設した「短ミリ波望遠  
鏡」11月22日午後2時、名  
古屋市千種区の同大で

生まれる一番最初の星間ガスが集まる段階が、まだよく分かっていない。新電波望遠鏡で、ぜひ解明したい」と話している。

大小マゼラン星を観測して、銀河系の生まれる過程の研究なども行う予定だ。

研究代表の福井康雄助教（天体物理）は、「星の



(朝日新聞 1991年 4月23日付 朝刊)



## VII. 会員の動向

### 新入会員:

|      |              |      |              |
|------|--------------|------|--------------|
| 細川瑞彦 | 通信総合研究所小金井支所 | 齋藤安文 | NRO 日産       |
| 山本正之 | 住友重機械工業      | 三澤浩昭 | 名古屋大学太陽地球環境所 |
| 吉澤正則 | 国立天文台        | 芝井 広 | 宇宙科学研究所      |
| 松原英夫 | 名古屋大学理学部     | 田村泰一 | 科学技術庁宇宙利用推進室 |
| 大西利和 | 名古屋大学理学部     | 坪井 隆 | 名古屋大学理学部     |
| 米倉覚則 | 名古屋大学理学部     |      |              |

### 異動:

|      |                               |
|------|-------------------------------|
| 徳丸宗利 | 郵政省通信総合研究所平磯支所⇒通信総合研究所稚内電波観測所 |
| 平野尚美 | 国立天文台野辺山⇒一橋大学地学               |
| 谷口義明 | 東京大学木曽観測所⇒東北大学理学部             |
| 春日 隆 | 国立天文台野辺山⇒法政大学工学部              |
| 斉藤修二 | 名古屋大学宇宙分子⇒分子科学研究所             |
| 市川 隆 | 一橋大学地学⇒東京大学木曽観測所              |
| 土橋一仁 | 名古屋大学理学部⇒大阪府立大学総合科学部          |

### ※今後のスケジュール

7月15日(月) 16日(火) 17日(水) <予定>

「NROユーザーズミーティング」

7月1日<予定>

新規「45メートル長期共同利用観測プロポーザル」募集締め切り

(p2の「専門委の共同利用関係」参照)

7月10日<予定>

「45メートル及び干渉計共同利用観測プロポーザル」募集締め切り

### 宇宙電波懇談会事務局

〒464-01 名古屋市千種区不老町

小川英夫 名古屋大学理学部物理学教室A研

福井康雄 Tel: 052-781-5111(内6657) または 052-781-6769(直通)

水野 亮 Fax: 052-782-0647

(開催 11日 8月 1000 開催日時)